

Q1 現在の仕事内容と、その仕事のやりがいを教えてください。

Q2 研究所の魅力を伝えてください。

研究職 (農学分野)

大阪の農業と食を支える、やりがいのある仕事です!



下野 雄太 Shimono Yuta

Q1 私は食品加工という切り口から大阪の農業や産業を支援する研究を行っています。

入所1年目には、府内の養鶏場と農家により共同提案された「大阪産(もん)の素材を活かした絶品レトルトカレー」の製品開発に取り組みました。レトルト処理後も具材の形を残すことが難しく、レトルト温度や時間、下処理方法を工夫して何度も試作を繰り返しました。その分、思い通りに袋からゴロっとした野菜が出てきた時は嬉しかったです。この製品を、大阪産(もん)の素材のPRに使っていただける日が楽しみです。

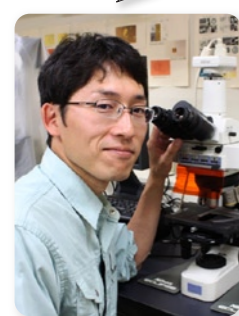
現在は、ぶどう加工品やワイン研究の立ち上げを担当しており、全国をリードする醸造技術を開発して、ぶどうやワイン産地としての大阪の知名度を高めていくことが目標です。

Q2 府立の研究所であるため、民間企業の視点とは異なり、府民の生活にとって重要なことに研究テーマとして取り組める点が大きな特徴だと思います。

入所 平成28年4月
所属 食と農の研究部 葡萄グループ
担当 醸造試験、醸造微生物に関する研究

研究職 (水産分野)

一緒に豊かな大阪湾を目指しましょう!



秋山 諭 Akiyama Satoshi

Q1 現在の主な業務として、大阪湾の海洋環境・プランクトンのモニタリングを担当しています。長期にわたるデータの蓄積は大学にはない公設試の強みであり、過去からのデータを利用した赤潮予察手法の開発や、温暖化の影響といった、海洋環境の変動解析にも取り組んでいます。

大阪湾は水産業としての規模は小さいですが、場所によって随分環境は違いますし、興味深いフィールドです。天然のものを相手をにしなければならぬので、現場に出ないと見えない問題が多々あるというのも面白さのひとつですね。

今後は、水質モデルや低次生態系モデルを用いた生物生産の解析にも力を入れ、栄養塩の状況など大阪湾内で何が起きているのかを再現して、将来的には、それをもとに大阪の魚の生産量を増やす方策の提案もしていきたいと考えています。

Q2 大阪の農林水産業の活性化を目標に、次々と新しい試験研究課題にも挑戦します。職場はアットホームで、課題を分担しながら共通の問題意識をもって仕事を行うことができます。また、子どもの保育園送迎のために育児時間を取得することもでき、男性の育児にも理解がある職場です。

入所 平成25年4月
所属 水産研究部 海洋環境グループ
担当 海洋観測、海洋の低次生態系に関する研究

研究職 (農学分野)

明るく元氣な“生き物好き”“自然好き”な人 求む!



土井 裕介 Doi Yusuke

Q1 主に大阪府が行っている流木対策事業の効果検証調査を担当しています。森林調査は重い機材を背負って急な斜面を歩くこともあり、体力的に大変ですが、数多くフィールドに通うことで、時には思いもよらないアイデアや新たな発見があります。

調査結果は、近年多発している集中豪雨等による土砂災害や流木災害の対策に活かされており、府民の安全を守ることにつながるので、とてもやりがいを感じています。今後も、災害に強い森づくりの研究に力を入れたいと思います。

大学では森林生態学を専攻していたので、植生調査の経験や生態学の知識は、調査研究を実施するうえでの基礎となっています。また、前職で取得した樹木医やピオトープ管理士等の資格は、樹木管理やピオトープに関する問い合わせの対応に活かすことができている。

Q2 研究所には様々なバックグラウンドの職員がいるので、多様な刺激を受けながら成長できます。府の法人であるため大学と比べると行政との連携が多く、かたいイメージがあるかもしれませんが、関西出身の方が多いため、雰囲気も明るく笑いが絶えません。

私が勤務している生物多様性センターは、平成30年1月に建て替えただけで、綺麗で快適で、働きやすい環境です。

入所 平成27年4月
所属 環境研究部 自然環境グループ
担当 森林や樹木に関する調査研究



スタッフ職 (農芸)

ぜひ一緒に汗を流しましょう!



鬼追 良隆 Kioi Yoshitaka

Q1 研究に必要な試験用の供試作物の栽培管理とスケジュール調整、防除に関する調査研究をサポートしています。慣行栽培しながらも病害虫が発生しやすい環境を整え、目的の病害虫のみに特化した試験を成立させるのが大変です。

試験を成功させるためには一定の栽培技術が求められますし、栽培の結果は気象条件などにも左右されるため、失敗や苦勞も多く、日々試行錯誤を繰り返しています。しかし、作物は手をかければかけるほど応えてくれるので、担当した試験が無事に終わると達成感があります。

Q2 様々な職種がありますが、その枠をこえて目的達成のために一緒に業務をするので、経験の深い浅い関係なく意見が言える環境です。また業務に必要な様々な資格取得のチャンスがあるので、個人のスキルアップにもつなげやすいです。

入所 平成27年8月
所属 食と農の研究部 栽培飼養グループ
担当 新農薬実用化試験用供試作物の栽培

事務職

好奇心旺盛な人が楽しめる場所です!



尾崎 茉莉耶 Ozaki Mariya

Q1 事務職は色々な部署に配属される可能性があります。部署や個人で仕事内容は違い、周囲の人との連携も必要です。そのため、「自分ひとりが分かればいい」と思わず、周りの人から見て分かりやすいように業務を進めることの大切さを実感しています。

現在は銀行へ入出金を行う出納業務を担っていますが、もともとは会計の知識がありませんでした。今の私のように、必ずしも得意分野に配属されるわけではありません。しかし、それぞれの配属先で「専門家ではない自分だからこそ出来る工夫」があるのだと思います。

いずれはもっと現場に近いところで、その「工夫」を発揮して、事務職として研究を支援したいと思っています。そのために常にアンテナを張って、研究所やそれらに関わる情報を取り入れるように心掛けています。

Q2 研究所は名前の通り「環境」「農林」「水産」と多岐に渡る研究をしている法人です。分野の違う研究が1つの会議で発表されたりと、色々なことを知ることが出来る面白い職場です。

入所 平成27年4月
所属 総務部 管理グループ
担当 出納業務

技術職 (環境分野)

一緒に分析のプロフェッショナルを目指しましょう!



小野 純子 Ono Junko

Q1 現在は、ダイオキシンの分析と、化学物質の分析法開発が主な業務です。学生のときの水質分析の経験を生かしつつ、より微量な成分の分析となるので注意しながら作業しています。

ここは府立の研究所なので、行政からの依頼により分析を行い、結果も大阪府から公表されます。特にダイオキシンは府民の方も敏感ですし、プレッシャーを感じることもあります。しかし分析結果を出すことで環境の現状を明らかにし、環境行政の施策に生かすことができるので、とてもやりがいのある仕事です。

分析法開発も困難なことは沢山ありますが、色々な方のアドバイスを聞きながら、求められる化学物質を正確に測定できる分析法の確立に取り組んでいます。

Q2 入所時は初めてのことはばかりでいろいろと戸惑いでしたが、頼りになる先輩方が沢山いて相談に乗ってくれるのがとても心強いです。また、環境と農林・水産とがひとつの研究所でまとまっているので、分野を超えて横の連携がスムーズであるところが魅力のひとつです。

入所 平成26年4月
所属 環境研究部 環境調査グループ
担当 分析法開発・ダイオキシン分析業務